

# 物流における取り組み

物流のあらゆる工程で環境負荷を低減する、新しい取り組みが始まっています。

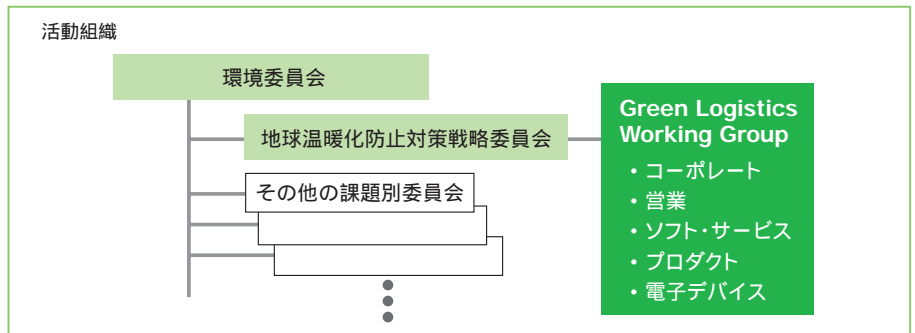
## 方針

製品をお客さまにお届けする物流にも、環境への影響を改善する多様な可能性があります。富士通グループでは、エクセル・ロジスティクス(株)旧(株)富士通ロジスティクス)の協力のもと、製品の梱包設計から保管・輸送にいたる一連の物流工程を効率化し、輸送から発生する環境負荷を低減するさまざまな施策を展開していきます。

## しくみ

### 1. グリーン・ロジスティクス活動の推進

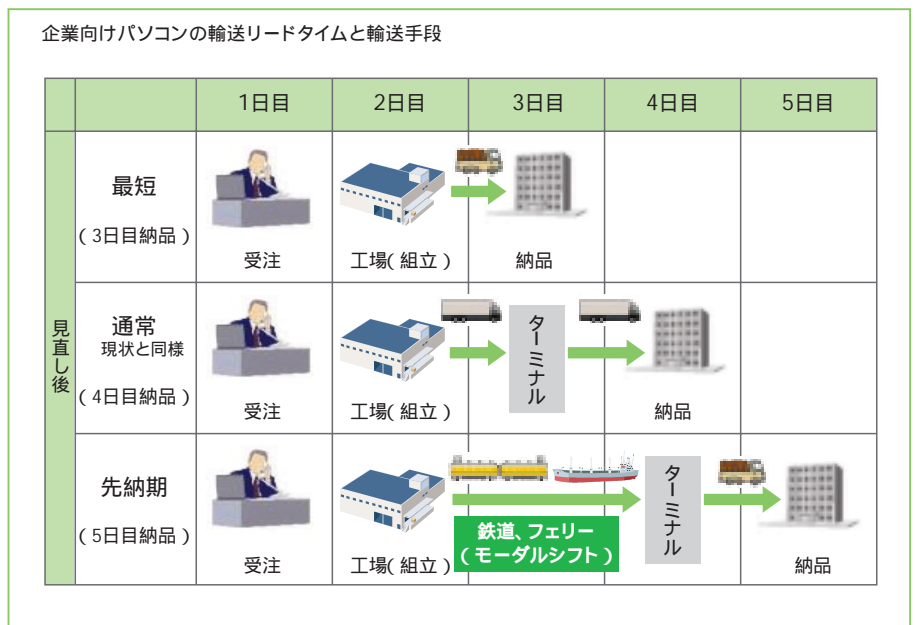
物流部門の環境活動をより効率的に行う目的で、各ビジネスグループの物流部門からなる活動組織( Green Logistics Working Group )を2003年7月に発足させました。この活動組織を中心にこれまで以上にビジネスグループ間の連携をはかりながら、モーダルシフト<sup>1</sup>の適用率拡大、輸配送効率の改善、緩衝材の廃棄量削減などの物流における環境負荷の低減活動を推進していきます。



### 2. 輸送モード選択システムの開発

物流を効率化する新しいしくみとして、お客さまの希望する納期に合わせた最適輸送モードを選択できるシステムを現在開発中です。本システムの稼働は、2004年下期を予定しています。最初は企業向けパソコンの出荷より適用し、他の製品に順次対象を拡大していきます。

企業向けパソコンの納期は、これまでは通常、受注してから3日先でした。富士通が行ったアンケートの結果、約30%のお客さまはより早い納期を希望し、約30%のお客さまはこれまでどおり、約40%のお客さまは4日先の納品でもかまわないことがわかりました。こうした調査に基づき、本システムでは通常納期に加え、最短納期(2日)と時間的に余裕がある場合の先納期(4日)をシステム上で選択できるようにしています。より早い納期を希望するお客さまには工場から直送し、先納期の受注に対しては環境負荷の少ないモーダルシフト輸送を選択できます。

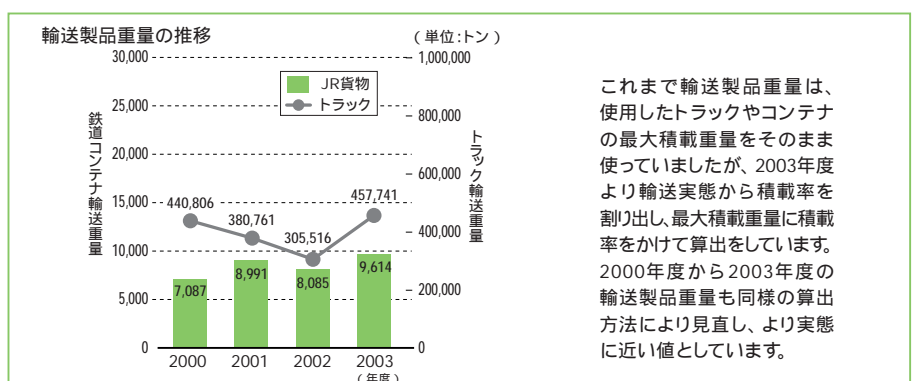


## 成果

### モーダルシフトの推進によるCO<sub>2</sub>排出量削減

#### モーダルシフト

富士通グループでは1995年以降、長距離貨物輸送を、地球温暖化ガス排出量の多いトラックから排出量の少ない鉄道にシフトするモーダルシフトを積極的に推進しています。



1の用語説明については67ページをご覧ください。

新たな取り組み: 新製品展示会への活用  
 モーダルシフトの適用率拡大を目的とした  
 新しい取り組みも進めています。全国各地  
 で実施している製品展示会ソリューション  
 フォーラム向けの機材輸送に(東京と九州,  
 東京と関西間)に、初めてモーダルシフトを  
 採用しました。輸送方法をトラックから鉄道  
 に変えたことで、約30トンのCO<sub>2</sub>排出を削減  
 しました。



展示会風景

## 輸配送時の環境配慮

### 紙製パレットの適用拡大

木材の使用量削減と、物流効率向上のため  
 の使用材の軽量化、さらに輸出時の薫蒸処  
 理の廃止による化学物質の使用量削減を目  
 的に、輸送パレットを木製から紙製に変更  
 しています。輸送製品は、ハードディスクから  
 2004年2月には光磁気MOディスクにまで対  
 象を拡大しました。



紙製パレット

### カタログ梱包資材の再利用

カタログ発送には従来プラスチック系緩衝  
 材を利用していましたが、新たに新規カタ  
 ログの納入時に使用されている包装紙を緩  
 衝材として再利用しています。これによ  
 り、石油を資源とするプラスチック系緩衝  
 材の利用削減をはかります。2003年度に  
 おいては、プラスチック系緩衝材の削減を  
 1,260kg分と試算しています。



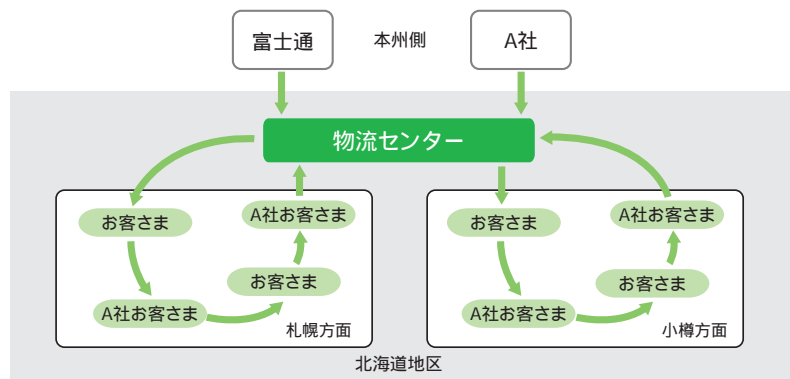
プラスチック系緩衝材

カタログ包装紙

## 輸配送効率の向上

### 共同配送による積載率の向上

店頭向けパソコンなどを対象に、他社との共同輸送を千葉、北海道エリアで新たに開始しました。

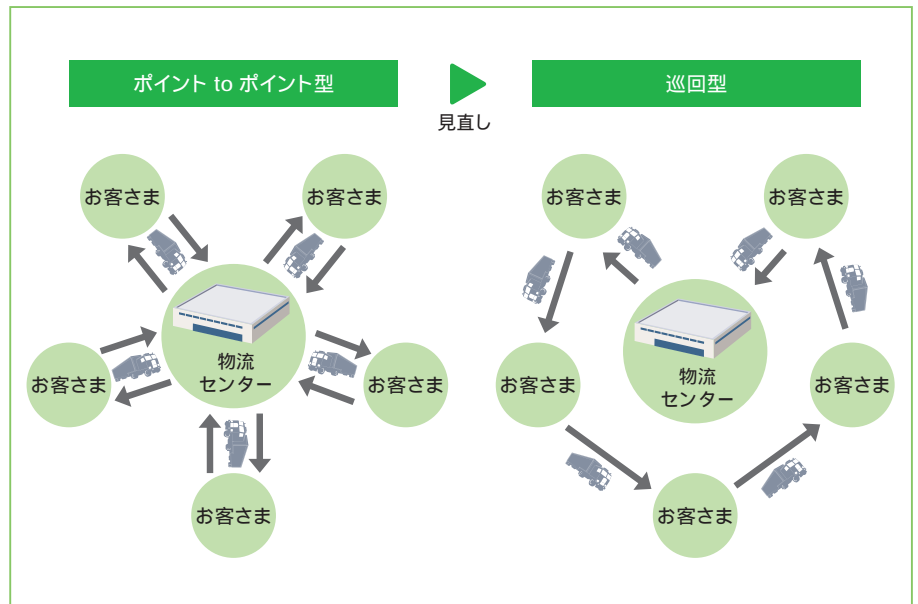


他社と共同の物流センターを使い、お客さまに対し担当会社に関わらず合理的なルートを選んで配送して回ることにより、総計のルート距離が減り、積載率が向上しました。

### 運行&重複ルートの見直し

各グループ単位で環境負荷の少ない物流の実現に日々努力しています。

- 電子デバイスビジネスグループでは、輸送業者3社を1社に統合し、業者間の重複ルートを削減しました。また、ハブセンタの利用によりルート距離を減らし、輸送効率を向上しました。
- システムサポート部門では、配送センターとお客さまの間の貸切便による運行ルートを見直し、それまでのポイント to ポイント型から巡回型に変更し、輸配送の効率を改善しました。



### 定期便ダイヤの見直し

定期便ダイヤの見直しを行うことにより輸送  
 の適正化をはかり、配車台数の削減と緊急  
 輸送便(スポット便)の利用抑制に取り組ん  
 でいます。

#### • パーツセンターでの事例

2003年9月度より、パートナー会社の協力を  
 得て、全国のパーツセンターからの定期運  
 行メール便のダイヤ見直しを実施し、輸送

効率の向上をはかってきました。メール便  
 の利用を促進することで、パートナー会社宛  
 のスポット便を前年比で約200回/月削減し  
 ました。これにより0.8トン-CO<sub>2</sub>/月の排出削  
 減効果が得られています。